

## 政務活動費活動報告（視察）

- (1) 出席者（会派名・個人名）  
会派／志士の会 個人名／北川元気
- (2) 実施日：  
2013年8月16日（金）

### 【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

昨年、大津の痛ましい生徒の自殺事件を皮切りに、いじめ、体罰、自殺、学級崩壊等教育現場の諸問題が次々と取り上げられる。文部科学省の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」においては過去5年間で滋賀県における暴力やいじめといった認識件数は着実に減少しているとあるが、暴力やいじめの持つ問題はその数で測りきれるものではなく、本市でも教育現場の諸問題は深刻化している。

(2) 本市における課題

近年、時代の変化の中で、子どもに手本を示す親や地域社会にも様々な規範意識の低下が見られ、当然子どもの世界にも大きな影響を与えている。善悪の判断、自尊意識の欠如、他人への感謝の心の欠如、倫理観・道徳観の低下など課題は山のようにある。

### 【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

1. 「親学・子学」の取り組みについて
2. 「神崎市四箇条の誓い」（規範意識向上）の取り組みについて

(2) 選定地1：

神崎市役所千代田支所（佐賀県）

### 【3. 調査結果】

(1) 内容

佐賀県神崎市議会 日本創生フォーラム勉強会 8/16

神崎市教育委員長／實松信子氏

神崎市教育委員会学校教育課課長／末次利明氏

◎なかなか現場で進まない道徳教育の先進的な取り組み。規範意識・道徳意識を地方から全国へ発信したい。

- ・子どもたちを「21世紀の生活者」と定義
- ・教師の資質向上→ハンドブック、
- ・家庭教育の基本→親学・子学、
- ・市民を巻き込む規範意識→四か条

◎いじめ防止対策法で本当に現場が良くなるのか？法よりも、市民と一緒に規範意識をつくる必要がある。

- ・神崎市四か条の誓い＝教育勅語の現代版を苦勞して作った(有識者の力を借りて)

※市長の理解、全面的な後押し、議員の理解があつて教育委員会も動ける  
・「誓い」「恩」などのフレーズに反対意見、カルト集団？の声もあった  
これからも市民に啓蒙していかなければいけない

課長／補助（県 1/2） 50 万／50 万 P T A 10 万で作成

・教師のハンドブック 平成 20 年作成  
ハンドブック常に持っておく（内容は、あたりまえのことしか書いていない）  
P.6 学校の決まり ついつい見逃してしまう  
これがあることで、教師自身も指導しやすい  
どこの学校、誰でもでも同じ指導ができる→戸惑いがない生徒

### 【親学・子学について】平成 23 年度作成

◎小中 10 学校で同じ教育ができるように作成  
これまで学校独自の学習の手引きがあつた（下じき、ファイルなど）  
まず運営協議会が設置されたが、なかなか具体案が出てこなかった  
子どもの成長に合わせて何が必要か？をアンケート

・「親学」は、保護者に見てもらわないと意味がない  
読みやすいよう、見やすいように工夫して作成  
※リーフレット全戸配布／家庭学習手引きは保護者全員に

・子どもは、どうやって勉強していいかがわからない  
学校で配布するだけでなくしっかり授業で指導する  
親学→昔であれば勉強より厳しくされていたあたりまえの事  
※覚えてほしい四字熟語も記載

◎子どもに教え、親にも学んでもらう  
保護者に理解してもらい、もっと広めていく、定着させることが課題  
すぐに成果はでないが、持続的に取り組み続けることが大事  
小 6 年間、中 3 年間しっかり指導していく

### 【神崎市「四か条の誓い」(規範意識向上)について】

平成 24 年度から取り組み開始

リーフレットを全戸配布／手引書を教員、生徒、家庭に配布

・「御恩」「礼儀」などむずかしい言葉をわざと使って家庭で親に子どもから聞いてもら  
う  
・子どもにむずかしいという声もあるが、必要なことを保護者が考え、理解することが  
大事

- ・年齢に応じた項目を家庭で指導してもらうことがねらい
- ・大判ポスターを各教室や公共機関などに張って徹底した PR を実施
- ・バッチを作成

◎7/2.3.4 地区子育て懇談会 7:30～ 「どうして子どもを育てるか」を地域で会議

- ・あたりまえのことが書いてある＝これは大人が守らないといけないという声があがる
- ・大人がまず模範となって示さないといけないという気づきを与える役目がある
- ・定着されるため、道徳の時間や学校からの発信を続ける
- ・家庭では家訓のような位置づけで使ってほしい

※大きな看板を作成 PTAなどでも取り上げてもらう

- ・継続は力なり、将来の神崎市を担う子どもたちにしっかりと伝えていきたい

#### ・質疑

Q.反対意見やクレームなどは？

→真摯に説明し納得してもらった 教育長のHPにQ&Aを

Q.学校の先生からの反発は？ →特になかった

Q.教師の服装は？

→しっかり指導(クールビズ以外はネクタイ) 県全体の動きになっている。現在、教壇のない教室に教壇を取り戻す取り組んでいる

Q.制定までの流れは？

→合併し各町バラバラだったため四か条でまとめようという流れ。会津っ子宣言などを参考に 規律、礼儀を作成。

Q.予算は？ →各校長に年間 20 万の予算をつけて取り組みを支援。基礎をつくらないと、そこからの成長ができない。古いものだけでなく、小1から英語教育(市予算)電子黒板、エアコン設置など新しいことも進めている。

Q.名簿は混合か？ →混合名簿はよくないという姿勢

## (2) 考察

神崎市の四か条の誓い、教師のハンドブック、親学・子学の取組みのいずれも目的が明確で、ターゲットに合わせた効果が出ており素晴らしい取り組みだと感銘をうけた。まさに「大人が変われば、子どもが変わる。子どもが変われば、未来が変わる」の実践であった。教育現場の諸問題は、時代とともに深刻化しており、学校だけではなく家庭や地域全体の問題として捉えなくてはならない。他人事ではなく我が事として捉え、短期的ではなく長期的ビジョンを持って教育をしていかなければ、彦根市のみならず、日本に未来はない。これまで以上に未来を見据えつつ、柔軟かつ堅実な施策を実行する必要が高まっている。我々はその使命と責任の重さを自覚し、常に研鑽に努め、市民の信頼と期待に応えなければならない。